

# 「みんな」にとってやさしい社会って、 どんな社会だろう？



## みんなの中には、 いろいろな「みんな」がいます

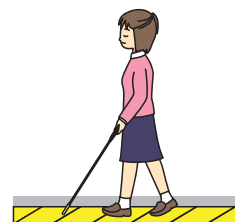
- **移動が大変な人がいます。**

お年寄りや、けがや病気のために歩くことが困難な人がいます。そうした人たちにとって、車いすは欠かすことのできない道具です。でも、車いすでは自力で階段を上ったり下りたりすることができません。少しでも段差があると、車いすはうまく前に進めなくなってしまいます。



- “どこに何があるか”が見えない人がいます。

目の不自由な人にとって、初めて行く場所は、どこに何があるかが分からないだけでなく、道路や駅のホームなど、常に危険と隣り合わせです。また、年をとると多くの人は、ものが見える範囲が狭くなって周りの様子がわかりにくくなったり、時刻表や運賃表などの小さな文字が読みづらくなります。



- **動作がゆっくりの人がいます。**

だれでも年をとってくると、若い頃と比べて動作や歩く速さがおそくなります。また、妊娠している女性は、生まれてくる命をいたわるために、ゆっくりした動きになります。



- **ブザーやアナウンスが聞こえない人がいます。**

生まれながらに耳の聞こえない人、病気や年をとって耳が聞こえなくなる人がいます。まちは、危険を知らせるブザーや、様々な情報を知らせるアナウンスであふれています。アナウンスが聞こえないと、事故などがあつたとき様子がわからないので、とても不安です。



※「ありがとう」の手話

みんなが、できるだけ不便ふべんや不自由ふじゆうをしないで、  
行きたいところに気持ちよく行けるような  
“バリアフリー社会”もとが求められています。

## ●「バリアフリー」ってなに？

バリアフリーの「バリア」とは、英語で障壁えいご（かべ）という意味です。つまり、バリアフリーとは、人々が移動いどうするときに障壁しょうへきになっているバリアをなくす（フリーにする）ことです。

「バリアフリー社会」を実現するためには、障害のある人を取りまく4つの「バリア」を取り除くことが必要といわれています。

### ●物理的なバリア

出入口や通路に段差だんさがあったり、幅がせまかったりすると、車いすの人などは利用できません。

### ●制度的なバリア

障害があることで資格がとれなかったり、入学や就職の試験が受けられなかったりすると、自分の思うように活動ができません。

### ●文化・情報面のバリア

目の不自由な人には点字や音声案内、耳の不自由な人には手話通訳や文字情報などがないと、必要な情報が伝わりません。

### ●意識上のバリア

障害があることを偏見の目で見たり、「かわいそうだから」と特別あつかいしたりすると、平等な交流ができません。

## ★このことばも覚えよう！ ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインとは、“あらかじめ、年齢や性別、体力や障害のあるなしに関係なく、どんな人にとっても使いやすくわかりやすいように、まちや身の回りのものをデザインする”という考え方です。

なるほど！バリアフリーは“バリアをなくす”こと、  
ユニバーサルデザインは“最初からバリアをつくらないように、だれにでも使いやすいようにデザインする”ということなんだね。

